

5. プロセス 1. 国際協働の深化

多様な学外パートナーと英知を結集し、自由闊達で有効な国際協働を戦略的に深化させる。

アクション

- 国際交流をより開かれた形で展開するため、国際学術交流協定の指針を明確化する
- 本学と互恵的關係を構築できる海外大学との戦略的パートナー制度を積極的に活用する
- 国際交流データを一元管理し、モニタリングや評価を通じた国際交流の活性化に活用する
- 海外拠点や大学間コンソーシアムを有効に活用する
- 学内外のネットワークを活用し、地域や国ごとに特徴ある国際交流を実施する
- 海外同窓会等の地域や世代を超えた東北大学海外ネットワークを充実させる
- 国際広報の展開により国際的プレゼンスを向上させる

プロセス 2. 包括的国際化の推進

国境を越えた「門戸開放」を通じ、世界の多様な人材・資源・ネットワークを惹きつけるハブとなる。

アクション

- 「門戸開放」の理念に基づき、国籍、宗教、人種、性別、年齢、障害、性自認・性的指向等の相違にとらわれない多様な価値観を認め合う大学コミュニティを形成し、構成員の多彩な能力を発揮できる環境を整備する
- 出島の国際化から脱却し、全学の諸活動に国際的視点を有する組織文化の醸成を目指し、全学キャンペーン、ネットワーキングを推進する
- 日英二言語体制を徹底し、非日本語話者が大学のあらゆる活動に主体的に参加し、貢献できる環境を整備する
- 国際通用性のある報酬体系や就労環境の実現を目指す
- 国際関係部署や委員会等を見直し、企画立案機能を強化し、意思決定を迅速化する